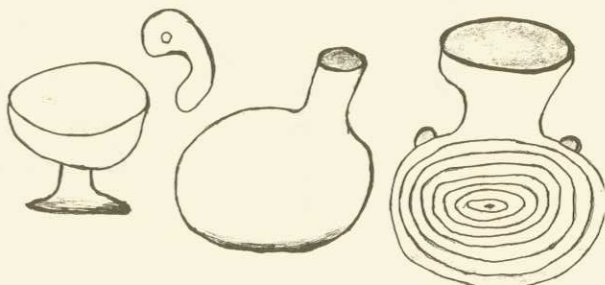


13 天王の古墳墓

尾花の集落へ張り出した山の東南に天王という地籍があります。明治二十年四月、そこで畑を耕していたお百姓さんが、山ぎわで大きな石を掘り当てました。なおも掘っていくと、一間に二間ほどの石室が現れたのです。中にはいろんな形の古い土器や刀剣、勾玉が埋もれていました。

これは、茨田姫の古墳墓だと言ひ伝えられています。



14 越前一の禪定神社

戦国時代、尾花の殿上山（禪定山）には白山権現をお祭りした神社があつて、朝倉氏の祈願所だつた。今は小さなお堂一つになつてしまつたが、朝倉氏の最盛期には越前では比べるものもな

いほど大きな、七堂伽藍がうち揃つた神社だつた。この祭神は三十三年に一度だけ開帳される秘仏だつた。登つて下りるだけで小半日はかかったので、寺中の河和田神社のあたりに遥拝所が設けられた。広い参道には、これまたびっくりするような大鳥居がつくられた。その礎石が一ヶ所北中に残つている。

遥拝所から山の上の禪定神社まで広い道が続いていた。途中に笠松という所があつて、大きな松の木が生えていた。木を切ると天候は大荒れになるといい、木の陰は西袋まで届いたとか。参詣の人々は神を敬つて、雨の日でもここで笠をとつて、木にかけておいて、先を急いだという。

この松は枯れてしまつて、いまは杉の木になつている。

朝倉氏が滅びる時、禪定神社も焼きはらわれた。祭神の白山権現は山向ごうの服間の松ヶ岳へ飛ばれたので、柳の村人は社殿をつくつておまつりしたが、もとの神社がなつかしいのか、いつの間にか殿上山の方へ向いてしまわれたそうなの。

